

# 西条・酒蔵通り及び周辺地区の文化的な資産や景観を保全するための勉強会

日時 平成26年11月24日(月・祝) 15:00~16:30  
場所 賀茂泉館 泉ホール  
主催 西条・山と水の環境機構  
出席者 東広島市議会 議員8人(世話役:西本博之 市民経済委員会委員長)  
西条酒造協会(賀茂鶴、白牡丹、亀齢、西條鶴、山陽鶴)  
前垣 壽男 (西条酒造協会 理事長、西条・山と水の環境機構 理事長)  
中越 信和 (広島大学大学院教授、西条・山と水の環境機構 運営委員長)  
浅野 敏久 (広島大学大学院教授、西条・山と水の環境機構 運営委員)  
取材 中国新聞社、カモンケーブルテレビ  
記事 2014.11.26 中国新聞

酒蔵地区の景観保全について話し合う  
酒造関係者や大学教授、市議たち



## 酒蔵景観守ろう 議論再燃

### 東広島 市議と勉強会やパンフ作成

東広島市中心部の酒蔵地区の景観を守ろうとする議論が活発化している。市内の環境保護団体が市議を招いて勉強会を開

き、討論会やパンフレットの作成も相次ぐ。JR西条駅前地区で住宅開発が進み、危機感が強まっている。(新山創)

「歴史ある建物がこれ以上減るとエリアの価値がなくなる。制約を乗り越え条例を作りたい」。酒造会社や大学の教員たちでつくる「西条・山と水の環境機構」は24日、景観保全に向けた勉強会を開いた。出席した市議8人に、広島大学大学院の中越信和教授が景観に関する条例の必要性を説明した。

市議からは「行政は縦割りで、難しい面がある。議会の特別委員会で進められないか」「景観は大事だが、価値や保護のコストをはっきり示せなければ」などの意見が出た。景観をめぐるのは、約10年前に酒造関係者たちがルール作りを提案しながら住民合意でできなかった。苦い経験を踏まえ「地権者の合意がネックになる」との声もあった。

それでも、観光客の増加や町並みの急激な変化を受け、保全を求める議論が再び出始めた。東広島青年会議所は今月、酒蔵の煙突がある景観などを紹介するパンフレットを作った。市内の学校などに無料で配り「景観の在り方を考えてほしい」と呼び掛けている。

日本都市計画学会中国四国支部も14日、市内でシンポジウムを開き、酒蔵ツーリズムの事例を紹介した。

支部長で近畿大工学部の高井広行教授は「酒蔵は東広島の宝。守るだけでなく生かす取り組みがいる」と指摘している。